

令和7年度 認定こども園教育・保育要録に基づく 施設関係者評価
 <公開保育> 及び <自己評価>

報告者		評価者名	実施日
摂津峡認定こども園 園長 清水 百合		堀川大輔（阿武野中学校校長）、上田恵子（北阿武野福祉委員会）、成松真央（摂津峡認定こども園保護者会会長）、植田紗季（保護者OB）、岩尾雅子（副園長）、松下奈々（主幹）、（副主幹）山下直美、福永瞳月、山中彩夏、寺田亜祐未	令和7年8月18日
評価の記録			
保育の様子を見て	良い点	・保育者の少しトーンを抑えた話し方が、伝えたいことを必死に話している子どもたちに有効だと感じた。 ・子どもたちの自己決定をまず受け止め、なぜそう判断したのか等を聞き、考えようとする姿勢。 ・保育者が子どもたち一人ひとりに温かく寄り添い、安心して園生活を送れるように工夫されている点。	
	改善点	・保育中の情報共有が難しい場面があるとの話があった。どの現場でも同じような状況はあると思うが、保護者の不安につながらないように取り組みを進めてほしい。 ・教育やあそびの場面では、子どもが自分の考えを発表したり、異年齢で学び合ったり、地域や自然に触れる活動が増えると、学びの幅が広がり、一層の成長の実感が得られると思います。	
	期待する点 更に	・保育者一人ひとりが自身の言葉で子どもたち、保護者に園についてや方針について、なぜそのように判断したのか、意図は何かなどについて語られるとより良い保育、子どもたちの成長につながると思いました。 ・子どもたちがより豊かに育ち、保護者も地域も一緒に子どもたちの成長を喜べる環境になると良いと思います。	
自己評価の説明を受けて	良い点	・年長児が年下の子どもを助けたり、教えてあげる姿があるのは、異年齢で過ごす日常があるからだと感じた。 ・地域とのつながりを深めていただけるとありがたい。高齢者や地域団体との交流、地元の文化や自然を活かした体験などは、子どもたちにとって貴重な学びとなり、地域全体が子どもを育てている実感につながります。 ・クッキングや玄関付近での野菜販売を通じて、食に興味を持っていてくれていると感じる。 ・先生方はとても大変だと思いますが、室内で遊びたい子、外へ散歩に行きたい子など、子どもたちがやりたい・したい思いを大切にしてくれている。 ・我が子が保育していただいている時も、とにかく丁寧な保育をしていただいているという安心感がありました。自己評価のプリントを拝見してもさらに丁寧さが増していると感じます。	
	改善点	・先生方ご自身の負担が少しでも和らぎ、ゆとりをもって子どもたちと向き合えるよう地域ボランティアの協力なども進めていただければと願っています。 ・特にありませんが、先生たちのお疲れが心配です。手を抜ける時（語弊があるかもしれませんが）は、抜いてほしいと感じるほどです。	
	期待する点 更に	・ぜひ「こんな保育をやってみたい」を実践していただきたい。 ・先生方の日々のご尽力には敬意を表し、今後のさらなる展開を応援しています。 ・子どもたちの「やりたい！」を大切にもらえるのは感謝ですが、保護者の方から年に一度でもクラスや学年ごとに歌の発表を見たいと聞いています。	
評価を受けて	今回の公開保育は、卒園生や保護者さんの保育参加の様子を見ていただきながら、保育・教育の連続性の大切さや保幼小連携をテーマに振り返りました。振り返りの中で、子どもの主体性を大切にしたい保育教育の実践をする中、地域や保護者に対して職員一人一人が言葉にして語られるように、園内での会議や研修を通して共有・連携・実践していくことが信頼に繋がると考えます。また、子ども・保護者・職員間の関係性においても好循環が生まれると思いました。これからも保育・教育の実践と並行して、地域にある信頼される認定こども園として運用していきたいと思います。		